〈研究ノート〉

『フォレスト・ガンプ一期一会』に見る アメリカ保守主義

三　井　美　穂

要　旨

アメリカ社会を理解するためのテクストとして映画を使用する場合，どのようなトピックをどのような切り口で扱うのが効果的だろうか。本稿では映画『フォレスト・ガンプ一期一会』をテクストとし，アメリカがどのように描かれているかを考察する。1994 年に製作されたこの映画は，1950 年代から 1990 年代はじめにかけてのアメリカ社会を背景として，一南部人の半生を描いたものである。20 世紀後半の社会の動きを知るだけでなく，1994 年当時の社会にスポットを当て，この映画が製作された土壌について考察することもできる。主人公が南部人であることから，取り上げるトピックは南部の地域性，人種問題，反体制運動の 3 点とし，そのトピックを互いに関連させながら映画を解釈していく。それにより，映画に描かれているアメリカの保守的文化を浮かび上がらせ，それを取り巻く，或いは対立する動きを読み取っていく。アメリカ社会の一側面を提示することが本稿の狙いである。

キーワード：映画，『フォレスト・ガンプ』，南部，保守文化，人種問題，反体制運動

1. はじめに

本稿の目的は，映画を異文化理解のためのテクストとして使用する際に，どのようなトピックを扱うことができるか，そのトピックを切り口と

したときどのようなアメリカが見えてくるかを論じ，その結果としてとらえられるアメリカの姿を一例として提示することである。具体的なテクストとして 1994 年に公開された『フォレスト・ガンプ一期一会』（以下『フォレスト・ガンプ』）を取り上げる。この作品は 1950 年代から 1990 年代に至るアメリカ社会を背景に，アラバマ州育ちの一南部人の半生を描いたものだが，この時代がすでに歴史の一部となった学生にとっては，あらためてアメリカの現代史を学ぶ機会となる。特に作品中に多用される当時のニュース映像のコラージュを見ることにより，どのようなできごとがアメリカ人にとって重大なニュースだったかを学生は知ることができる。また作品中の時代を学ぶと同時に，公開された 1994 年という時代を反映した監督ら製作側の意図にも目を向けることで，20 世紀後半から現在への時代の流れや社会の変化に気づくこともできる。

2. 先行研究

ミンツは，映画は歴史的事件の意味やインパクトを理解するための伝達手段だと言っている（Mintz　2016）。映画作品を時代背景や文化とともに論じたものは数多くある。日本ではたとえば『90 年代アメリカ映画 100』（大場　2012）が『フォレスト・ガンプ』を含む 100 本もの映画を取り上げているが，それぞれ簡単な解説にとどまる。『アメリカ映画とカラーライン』（金澤　2014）は人種問題の視点から映画と時代を絡めて論じていて，人種問題を理解するためには有用な一冊と言える。ただし『フォレスト・ガンプ』は取り上げられていない。『フォレスト・ガンプ』を時代背景とともに深く掘り下げているのは『町山智浩の映画塾』や『最も危険なアメリカ映画』（ともに町山　2016）で，アメリカの様々な問題を浮かび上がらせる。

英語の教科書としてはマクミランから *American History in Focus*（穐

本　2005）が出版されている。各ユニットでリスニングが半分，残りがスクリプトではなく時代背景などを解説したリーディング用の教材となり，日本語で補完してある。取り上げられたトピックは以下の通り，① KKK ②エルヴィス・プレスリー　③ケネディ大統領　④公民権運動　⑤ベトナム戦争　⑥ヒッピー　⑦ジョン・レノン　⑧ウォーターゲート事件　⑨アップル・コンピュータ　⑩アメリカ建国 200 年　⑪エイズの 11 項目である。これらの項目の多くは作品中に視覚化された事柄を中心にしているが，作品中には言及されていない事柄，① KKK の項目での教会爆破事件と④公民権運動の 2 つを取り上げたことは，映画鑑賞から一歩進んだ，より深い文化理解にふさわしいものと言えよう。

本稿は，*American History in Focus* を補完する形で，映画に直接言及されていない事柄を探り，アメリカを深く理解することを目指す。その結果として，アメリカ社会における保守派と反体制派の対峙を浮かび上がらせたい。

3. 手　法

以下の 3 つの方法で映画を論じる。

① 1950 年代から 1990 年代にかけての歴史と照らし合わせる。『検証アメリカ 500 年の物語』（猿谷　2013）などから該当箇所を確認し，映画のそれぞれのシーンがその時代をどのように描いているかを考察する。その際，アメリカの外側から日本人が見た『検証』のトーンと映画のトーンの違いに注目する。それにより，映画に反映されたアメリカ人の，あるいは監督や製作者が代表するアメリカ人の特定のグループの思想に気づく可能性がある。

②間テクスト性（intertextuality）の観点から，映画の原作『フォレスト・ガンプ』（グルーム　1995）と比較し，変更された点にどのような意

味や意図があるかを探る。また他の映画との比較から，『フォレスト・ガンプ』で扱われた，あるいは描かれなかった事件に対する製作者側の姿勢を考察する。

③読者反応（reader-response criticism）を応用し，メディアに登場する観客の声を頼りに，アメリカ文化を背景に持つ視聴者が実際どのようにこの映画を捉えているかを参考にして，アメリカ文化を考察する。

4. 課　題

アメリカ文化理解のためのトピックとして，①地域性（本稿では深南部のアラバマ州）　②人種問題　③反体制運動の 3 点を取り上げる。アメリカは他民族国家で，広い国土には地域的な特徴も顕著である。その地域性と人種問題は，植民地から建国に至る時代や奴隷制時代を考えても，切り離せない問題である。またその問題に関して，アメリカ市民はしばしば声を上げてきた。公民権運動や反戦運動，現在でもなお論争が続いている銃規制や人工妊娠中絶擁護の運動なども，反体制運動の代表である。上記 3 つのトピックは個別に取り上げるのではなく，それぞれに関連したシーンを取り出し考察する。それによって『フォレスト・ガンプ』がアメリカ社会をどのように描いているのかを提示したい。

5. 考　察

5.1. バス停のベンチ

『フォレスト・ガンプ』は主人公のフォレストがベンチに座ってバスを待つ間，隣に座った人たちにこれまでの人生を語り，その回想シーンで映画が構成されている。最初の話し相手は黒人女性で，泥だらけのフォレストのスニーカーのアップの後，この女性の白い靴が目を引く。

FORREST: My mama always said life was like a box of chocolates. You never know what you're going to get. Those must be comfortable shoes. I bet you could walk all day in shoes like those and not feel a thing. And I wish I had shoes like that.

NURSE: My feet hurt.（00:03:20-）

本映画のタグラインである「人生はチョコレートの箱のようなもの」に続く，靴に関するセリフに注目する。映画の時代設定はおそらく 1990 年代はじめとみられるが，南部でバス停といえば，1950 年代半ばにバス・ボイコット運動の引き金となった，アラバマ州で起きたローザ・パークスの事件だろう。1 日の仕事に疲れ切ったパークスは空いている席へ座った。立っている白人がいれば黒人が席を譲るのは当時の南部では常識だったが，パークスはそれを拒否したために逮捕された。これをきっかけに，黒人たちはバス乗車をボイコットし，どんなに遠い職場へも歩いて通った。白人は車を持っているから，主に黒人を乗客としているモンゴメリー市営バスにとって，これは痛手だった。このバス・ボイコットを描いた映画には，ウーピー・ゴールドバーグ主演の『ロング・ウォーク・ホーム』(1990) がある。この映画は直接的に反人種分離政策の運動を描いているが，『フォレスト・ガンプ』はどうだろうか。

バス停でフォレストが隣の黒人女性に言う「一日中歩き回っても，その靴なら痛くないでしょう」は，バス・ボイコットを連想させるセリフだ。南部白人のあてこすりにも聞こえよう。このシーンに関して，観客が Internet Movie Database（IMDb）のサイトに上げたコメントを参照したい。バス停でのやり取りを過去への暗喩として捉えるアメリカ人の見方の一例である。

The first person Forrest Gump speaks to in the film has similarities

with Civil Rights icon Rosa Parks. She is a working-class African American woman riding a public bus. She even mentions to Forrest that her "feet hurt", a statement widely believed to have been uttered by Ms. Parks when she refused [to] give up her seat for a white passenger on a bus in Montgomery in December 1955. Her act of defiance and subsequent arrest sparked the Montgomery Bus Boycott, a movement that set in motion the fight for equality in the South led by Dr. Martin Luther King, Jr. Years later, Rosa Parks denied telling the bus driver she was tired or that her feet hurt declaring, "the only tired I was, was tired of giving in". (下線部は筆者 IMDb Trivia)

女性は「足が痛い」と返す。これはパークスが事件のとき言ったとされる言葉だが，実際パークスが席を立つことを拒否して運転手に言ったのは「疲れている」とか「足が痛い」ではなく，「席を譲ることにはもううんざり」（パークス 1994）だった。公民権運動への動機を明らかにしつつ，「ただ疲れていたんです，あきらめることに」という意味もかけて "tired of" を使った，ウィットが感じられるコメントだった。

フォレストは女性の「足が痛い」という返事には無関心で，自分が幼いころ装着していた脚の矯正具に思いを馳せる。1950 年代はフォレストにとって脚の矯正具がはずれて走れるようになった良い時代であり，良い時代の前にはバス・ボイコットのことなどかすんでしまう。このように見ると，「その靴なら痛くないでしょう」というバス・ボイコット運動への暗喩は，南部保守派の視点から描かれていることがわかる。主人公フォレストが語り手であり観客は通常語り手の視点を共有することになるのだが，それは南部人の視点となる。フォレストの純粋無垢な人間性と同時に南部的な保守性を観客は自分の視点とせざるを得ない。そこに居心地の悪さを

感じる観客はこの映画を南部保守派の視点から描いた作品だと受け止めるだろう。しかしフォレストの低いIQではこのような過去の出来事が理解できるはずがない，という前提を受け入れるならば，フォレストの純粋な目を通して見た1950年代のアメリカを，観客は古き良き時代として眺めるだろう。

5.2. 名前の由来

フォレストはこの黒人看護師に名前の由来を次のように語る。これを女性は無言で聞いていて，反論はしない。それもまたかつての2つの人種の関係を連想させる。

> FORREST: When I was a baby, Mama named me after the great Civil War hero, General Nathan Bedford Forrest. She said we [were] related to him in some way. What he did was he started up this club called the Ku Klux Klan. They'd all dress up in their robes and their bed sheets and act like a bunch of ghosts or spooks or something. They'd even put bed sheets on their horses and ride around. Anyway, that's how I got my name, Forrest Gump. Mama said that "Forrest" part was to remind me that sometimes we all do things…, well, just don't make sense. (00:05:20-)

母親は「人はときにバカなことをする」という戒めのためにフォレスト将軍の名前をとってつけたというが，息子は将軍を南北戦争の「英雄」として語りながらも，この戦争が奴隷制を死守するための戦いだったことについては無知である。将軍は南部連合の敗北後KKKを組織したが，フォレストはKKKの実態を知らず，「馬鹿なこと」という母の言葉を，白いシー

ツをかぶり，馬にもかぶせて走り回ることと思っているようだ。5.1. で述べたように，このような構図が観客に要求するのは，フォレストという信頼できない語り手の視点を共有し続けることである。

グルームの原作では，母親はフォレスト将軍が遠縁だと教えるが，母親も祖母も将軍が KKK を組織したことに対しては批判的なコメントをしている。原作は「ほら話」（Tall Tale）というアメリカの伝統を継承した小説の形態をとっており，全編に「ほら」が溢れているため，先祖がフォレスト将軍というのも信用できないし，名前の由来も怪しい。そもそも原作の「フォレスト・ガンプ」という名前はウィットが効いている。「ガンプ」は南部の方言では「バカ」の意味で，フォレストが KKK のリーダーを意味するなら，「KKK のバカ」という意味になる。映画は原作とは異なるニュアンスを作り出しているようで，この点でも語り手に対する観客の信頼度は低い。

5.3. 南部の人種問題

先のシーンでは馬にまたがったフォレスト将軍が映し出される。この映像は KKK を美化したプロパガンダ映画『国民の創生』(1915）の 1 シーンを編集したものだ。南北戦争後に誕生した KKK はその後どんな活動をしたのだろうか。*American History in Focus*（穐本　2006）には KKK についての日本語のコラムに加え，1963 年の教会爆破事件についての解説がある。映画『グローリー —— 明日への行進』(2014）の衝撃的なオープニングの通り，4 人の黒人少女が犠牲となったこの事件は，公民権運動が南部黒人の間から全国に広がるきっかけを作った，あまりにも悲惨な事件だった。教科書のコラムは事件から 40 年後にようやく元 KKK の実行犯に有罪判決が下されたことを伝えている。これは有益な情報だ。なぜならば，『フォレスト・ガンプ』は 1950 年代から 1960 年代の南部を描いているにもかかわらず，オープニングで人種問題を皮肉に示唆するだけで，正面か

ら人種問題を取り上げていないからだ。むしろその時代には何もなかったかのように描かれている。たとえば，フォレストとジェニーの出会いや，フォレストの脚の矯正具が奇跡的に外れて誰よりも速く走れるようになったこと，そのために大学でフットボールができアメリカ代表になったことなど，時代が個人的な美しい思い出に置き換えられ，古き良き南部の景色が背景に映し出されるのだ。

映画評論家の町山は「町山智浩の映画塾！」や『最も危険なアメリカ映画』で，『フォレスト・ガンプ』が南部の人種問題を描いていないのは監督が意図的に歴史を歪曲したからだ，と強く批判している（町山　2016）。*American History in Focus* の日本語コラムでも，公開当時勢いを増していたアメリカの保守派を考慮した情報を入れ込んで映画のヒットを狙った，というエピソードを紹介している（穐本 2006）。確かに 1994 年公開のこの映画は，1990 年前後のアメリカ社会を反映している。ギャラップ調査によれば，1991 年共和党ブッシュ大統領が湾岸戦争の「砂漠の嵐」作戦で勝利宣言を行ったとき，大統領の支持率は 89％に達したという。その後，湾岸戦争に疑問を持ち始めたアメリカ人は民主党のクリントンを大統領に選ぶが，「ブラック・マンデー」を経験し日本のバブル経済を眺める頃になると，共和党が再び勢いを増してくる。1994 年の中間選挙で『フォレスト・ガンプ』が共和党のプロパガンダに使われたことも，上下院ともに圧勝した一因だと町山は言う（町山　2016）。

つまり 1990 年代は保守的な風潮がアメリカを支配していたと言えよう。そのため同じく保守的な時代だった 1950 年代から 1960 年代は，矯正具が外れたことをフォレストが懐かしく思い出すように，アメリカの保守派にとっては「古き良き時代」だったのだ。

『フォレスト・ガンプ』では，この時代の主な事件を当時のニュース映像を交えながら挿入しているのだが，公民権運動のニュース映像はほとんどない。アラバマ大学初の黒人学生オーザリン・ルーシーの入学妨害の

ニュース映像のみだ。もちろんこれは重要な事件ではあるが，公民権運動家の活動を妨害するためにリンチ殺人が頻発したことや，なによりも，キング牧師のワシントン大行進や暗殺に触れられていないのは，どういうことだろうか。実はキング牧師のニュース映像は用意されていたが，削除されたようだ。

> Robert Zemeckis decided to leave out several planned effects shots. One shot in particular involved Forrest running into Dr. Martin Luther King Jr. and his supporters.（IMDb Trivia）

この点にも，人種問題に関する保守的な姿勢があることに気づく。

ところがフォレストは教育されていないから，人種差別政策も公民権運動にも無知だ。だからこそ黒人との友情を育てることもできる。しかし映画の中に黒人の登場人物は少なく，人物造形がなされているのはババのみであり，そのババはベトナム戦争で死んでしまう。ババをクローズアップすることでフォレストの保守的な視点が消えたように思えるが，そのババの姿を消すことで，映画はまた保守的な基本姿勢を取り戻している。

ところが，ババの人物設定は原作とは大きく異なる。映画のババはフォレストと同じく，少し知能が足りない様子だが，原作のババは知能に問題のない白人だ。“Bubba”とは南部の方言で“Brother”がなまったものと言われ，「アニキ」とか「相棒」，あるいは保守的な南部白人という意味になる。原作にはない黒人ババを登場させ，戦死させた意味は何だろう。ババを黒人に変更することは，前述したアラバマ大学の黒人学生に対するフォレストの中立な態度を補強する，都合よい設定と言えないか。ババはベトナム戦争中でさえエビ漁の話しかしない「愛すべきバカな黒人」という，ジム・クロウ的な戯画化された黒人として描かれる。ババの唇が異様に大きいのもそのためだろう。ババの存在意義とは，フォレストの人間的

な正しさを示すためではないか。戦死する友人を看取り，約束を守ってエビ漁をはじめ，収益をババの家族に分ける，といった，結局フォレストを心優しい南部人にするために作られた役のように思われる。このマジカル・ニグロは映画だけでなく文学でもよく見られるステレオタイプで，物語をより共感できるものにするためのコマとして使われ，白人読者 / 観客の欲求を満たす。感動的な場面を作るのには不可欠だ。故に人種問題に関して，この映画は保守的な姿勢を保っていると言えよう。

5.4. 南部の地域性

映画の舞台はアメリカの深南部アラバマ州で，フォレストが母と住む大きな家があり，黒人メイドをひとり雇っている。広い庭には巨大なオークの木があり，幼いフォレストが唯一の友だちジェーンと一緒にその枝に座って一日を過ごす。母子家庭の収入源となるのは，部屋数を利用した旅行者用の下宿だ。南部にはサザン・ホスピタリティという，厚いもてなしの精神がある。その一方，この大きな屋敷は，奴隷制時代にはプランテーションだっただろうことも想像できる。母子二人でも生活していけるだけの資産が，ガンプ家にはあるのだ。ちなみに原作のガンプ家はむしろ貧しい家庭だ。

この屋敷の光景から観客が感じるのは，「古き良き南部」か，でなければそれを支えた奴隷制だろう。映画『それでも夜は明ける』(2013) は，奴隷制時代のプランテーションの主人の邸宅と，そこで奴隷たちが受ける酷い仕打ちが描かれる。奴隷が庭のオークの木に吊るされたり，木に縛られて鞭打たれるなど，悲惨な場面も多かった。オークの木といえば，ガンプ家の庭でも南部でよくみられるスパニッシュ・モスが太い枝からぶら下がり，風にそよいでいる。それはまたジャズシンガーのビリー・ホリデイが歌った「奇妙な果実」を連想させる。“Southern trees bear a strange fruit/Blood on the leaves and blood at the root/ Black bodies swinging

in the southern breeze/ Strange fruit hanging from the poplar trees”（“Strange Fruit”）は，南部の木には見慣れない果実がなっているが，それは血を滴らせた黒い遺体だ，という歌だ。スパニッシュ・モスはまさにこの奇妙な果実とオーバーラップするのだ。郷愁をそそるBGMと共に映し出される古き良きアメリカをバックにしたフォレストとジェーンの姿は，見る者の立ち位置の違いを明らかにする。南部は二面性を備えた土地柄というのがよくわかる映像だ。

南部の問題は人種問題だけではない。レッドネックと呼ばれる貧乏白人の問題もあった。長時間の農作業で首が日に焼けて赤くなることから，こう呼ばれた。ジェニーが父親と暮らす家はトウモロコシ畑の横にある，奴隷小屋に毛が生えた程度のみすぼらしい家だ。しかもレッドネックを戯画化したようなアイルランド系の父親は飲んだくれで，フォレストが“loving man”と言うようにジェニーに性的虐待をしている。おそらくガンプ家のようなプランテーションのシェア・クロッパー（小作農）だったのだろう。父親は逮捕され，ジェニーは祖母に引き取られることになるのだが，この家は父親の家よりもさらに貧しい暮らしを思わせるトレーラーハウスだった。

フォレストの母親は，矯正具を着けIQも低い息子に「あなたは誰とも違っていない」と言って励ます。ところがフォレストの背骨は完治し，並みはずれた脚力によって国民的ヒーローとなり，ビジネスで大成功するのである。豊かな階層のフォレストは，すべての点において南部の農園主としての資格が「誰とも違っていない」のだ。それに比べ，ジェニーの人生はあまりにもやるせない。観客はババに抱いた感情をジェニーにも持つかもしれない。ジェニーは1960年代から70年代にかけてのカウンターカルチャーの申し子であり，保守的な社会ではアウトサイダーだ。

5.5. カウンターカルチャー

ジェニーは公民権運動，反戦運動の活動家でもあるジョーン・バエズのような歌手になる夢も破れ，ストリップ劇場で歌い，ヒッピー集団に加わり，反戦運動に参加し，サイケデリックな流行に飲まれて薬物に手を染め，転落の一途をたどって自殺一歩手前まで追いつめられる。このように見ると，ジェニーはマイノリティに区分されよう。フォレストの子を身ごもるが，人工妊娠中絶が認められない南部では，不治の病に気づきながらも選択の余地がない。シングルマザーとなるも，結局帰らぬ人となる。ジェニーはフォレストに“I have some kind of virus, and the doctors don't know what it is, and there isn't anything they can do about it”（02:03:40）と説明している。1980 年代世界的に蔓延したエイズは死に至る病だった。しかも主な原因はフリーラブとドラッグの注射針の使い回しで，その他の可能性についてはまだ触れられることが少なかった時代だ。ジェニーは自由奔放な生活を送ってきたツケとしてエイズにかかるのだ。ちなみに原作のジェニーはフォレストがマリファナを使うことに憤るタイプの常識人で，エイズにもかかっていない。

1960 年代から 1970 年代にかけて，アメリカは公民権運動，ベトナム反戦運動，女性解放運動，ヒッピー文化と，若者たちが政府に対して大きく反旗を翻した時代だった。「すべての市民は平等」とするアメリカの理念や，平和のための戦争などというお題目は欺瞞に満ちているとして，若者は大人を信じなくなっていた。これは親子の断絶を招き，家族の崩壊につながる。アメリカの保守派が理想とする家族の再生のためには，カウンターカルチャーの若者たちは邪魔者でしかない。ジェニーの末路はこのような理由で決められたのかもしれない。

では IQ の低いフォレストは，マイノリティではないのだろうか。黒人が自由にバスの席に座れなかったように，フォレストもスクールバスで席

を拒絶される。高校でいじめっ子たちに車で追い回されるシーンでは，その車のバンパーに南部連合の旗が見える。このようなシーンだけ取り出してみると，フォレストは南部社会では異質と言える。しかしその後大成功し，ババの家族や地元の黒人教会，病院などに多額の寄付をするところを見ると，南部の名士の仲間入りをしたようだ。なぜかというと，それまでの人生でフォレストは何かに反抗したり主張したりしたこともなく，目の前に敷かれたレールの上を忠実に歩いてきたからだろう。母親の言葉を常に思い出し，「スクウェア」（公正であると同時に保守的）に生きてきたのだ。拒絶されてもルールにのっとって生きていれば後にいいことが待っている，というプロパガンダとも受け取れる。フォレストとジェニーは対照的に描かれている。

フォレストが保守派の象徴であることは，次の２つのシーンからも言える。まずはワシントン DC での反戦集会に迷い込み，スピーチをさせられたときのことだ。フォレストが話し始めた途端にマイクの音声が途切れ，話し終わったときに音声が戻る。集会の聴衆にも映画の観客にも，フォレストがいったい何を言ったのか全くわからない。原作のフォレストは，陸軍勧誘のスピーチでも，反戦集会でも，「戦争なんてろくでもないことです」（グルーム 1995）とはっきり言っているが，これは反体制派の言葉であり映画のフォレストのセリフにはできない。プロデューサーのウェンディ・ファイナーマンは DVD の副音声で，“We couldn’t figure out what his words would be. The idea came in to have the police stop his message because we never figured out what words he’d use to describe the war in Vietnam.”と言っている。フォレストに何を言わせるか思いつかなかったので，警官に邪魔させることにしたらしい。原作のフォレストの主張は明らかだが，映画のフォレストは全く別の保守的な人物として描かれているため，反戦運動で主張することなど何もないということを隠さざるを得ない。

もう一つはフォレストが走って大陸横断をするときにレポーターが集

まってくるシーンだ。

REPORTER A: Why are you running?
B: Are you doing this for world peace?
C: Are you doing for the homeless?
D: Are you running for women's rights?
E: Or for the environment?　(01:55:00)

当時の様々な反体制運動を反映したこのシーンで，レポーターたちは走る目的をフォレストに尋ねる。しかしそもそもフォレストには走る目的も人生の目的もないから，ワシントン DC の反戦集会のときと同様に何も答えない。髪も髭も伸び放題のフォレストの容貌はキリストを彷彿させ，何人もの悩める人たちがついて行く構図は，保守派のリーダーに大衆が従う構図と重ねられる。

このようにフォレストは保守派，ジェニーは反体制派の象徴として，それぞれの人生の様相が対照的に描かれる。スクウェアなフォレストには成功者の現在，カウンターカルチャーのジェニーには死が用意されている。

6. おわりに

以上のように，『フォレスト・ガンプ』をテクストとした場合，地域性，人種問題，反体制運動の 3 つのトピックを切り口に論じることで，アメリカ社会の一面が見えてきた。正しいとされる慣習や常識にのっとって生きていけば，戦争のヒーローにもなれるし，大金持ちにもなれる。フォレストが体現した南部のこのような保守的な理想は，対極に反体制派のジェニーを置いてみるとわかりやすい。

ジェニーが最後にフォレストのもとに戻ったのは，カウンターカル

チャーが社会と折り合いをつけたことを意味するから『フォレスト・ガンプ』は保守的な映画だ，とイーバートは言う（Smith 2019）。またダニエル・ハーバートは，非常に因習的な保守的姿勢を奨励する映画として批判している（Griggs　2014）。だがスミスはその解釈に反論して，フォレストを偶然の成功者にすることでアイロニカルな作品，反保守的な作品になっているとしている（Smith 2019）。サム・ワインバーグは，この作品はどちらかに偏ったものではなく，アメリカの良心と無垢の賛歌であると同時にアメリカの純朴と無知の批判でもある，と言っている（Griggs 2014）。 映画はフォレストの信頼できない視点で語られるため，映画自体の含意は曖昧にされているが，それがどちらにあるのかを判断するのは本稿の目的ではない。ここではそのような掘り下げ方ができ，保守派と反体制派の対峙を読み取れるという点で，映画を文化理解のテクストとして使用する意味を強調したいと思う。

映画はこのように，ストーリーの中に描かれた歴史や文化を見ることもできるし，また製作時の背景を考えることもできる。アメリカの外側から日本人がこの映画を観たとき，感動の涙を流したかもしれない。しかし日本人の目に映るアメリカがアメリカ人の目に映るものとは違う可能性もあり，その違いを知ることが異文化理解につながることになろう。

引用文献・参考文献

穐本浩美，濱田真由美　*American History in Focus*『映画「フォレスト・ガンプ一期一会」で学ぶアメリカ現代史』マクミラン　2006 年.

大場正明監修『90 年代アメリカ映画 100』芸術新聞社　2012 年.

金澤智『アメリカ映画とカラーライン ── 映像が侵犯する人種境界線』水声社 2014 年.

亀井俊介編著『アメリカ文化史入門 ── 植民地時代から現代まで』昭和堂 2006 年.

Griggs，Brandon. “Why we loved - and hated - ‘Forrest Gump.’” CNN. Updated 2340 GMT（0740 HKT）July 4，2014.

（https://edition.cnn.com/2014/07/04/showbiz/movies/forrest-gump-20-years-later/index.html）
グルーム，ウィンストン『フォレスト・ガンプ』小川敏子訳　講談社　1995 年 .（Groom，Winston. *Forrest Gump.*）
ギャラップ調査　Gullup（https://www.gallup.com/home.aspx）
猿谷要『検証アメリカ 500 年の物語』平凡社　2013 年 .
Smith，Kyle. “Everyone is Wrong about Forrest Gump，” *National Review*. June 25，2019.（https://www.nationalreview. com/）
パークス，ローザ『黒人の誇り・人間の誇り—ローザ・パークス自伝』高橋朋子訳　サイマル出版会　1994 年 .（Parks，Rosa. *Rosa Parks: My Story.*）
Franklin，Daniel P. *Politics and Film: The Political Culture of Television and Movies*. 2nd ed. Rowman & Littlefield，　Lanham，Boulder，New York，London，2017.
町山智浩『最も危険なアメリカ映画 ——「國民の創生」から「バック・トゥ・ザ・フューチャー」まで』集英社　2016 年 .
————.『町山智浩の映画塾！「フォレスト・ガンプ一期一会」＜復習編＞』【WOWOW】#184　2016 年（https://www.youtube. com/watch?v=8Kb-n9IVrgkE）
Mintz，Steven. “Movies，History，and the Disneyfication of the Past: The Case of Pocahontas.” *Hollywood's America: Understanding History through Film*. 5th ed. Steven Mintz，Randy Roberts，and David Welky eds. John Wiley & Sons: Chichester，West Sussex，2016（392–398）.

映画

『フォレスト・ガンプ一期一会』*Forrest Gump* 1994.
『グローリー　明日への行進』*Selma* 2014.
『国民の創生』*The Birth of a Nation* 1915.
『ロング・ウォーク・ホーム』　*The Long Walk Home* 1990.
『それでも夜は明ける』　*12 Years a Slave* 2013.

映画関連のウェブサイト

American Film Institute（https://www.afi.com/）
Internet Movie Database（https://www.imdb.com/）

（原稿受付　2020 年 1 月 23 日）